第3種郵便物認可　朝日新聞　2006年(平成18年)1月5日

再就職のコツ〝実践指導〟

21世紀職業財団 セミナー10年

面接マナーやアピール…

子育てや介護などで退職し、その後、再就職しようとする人たちを支援する「再就職準備セミナー」が始まって約10年になる。セミナーは、厚生労働省の外郭団体、21世紀職業財団が実施する再就職希望登録者支援事業の一環。県内では、毎年100人ほどが参加して、面接のマナーや自己アピールの仕方、基本的な法律の仕組みなどを学んでいる。（田中美穂）

再就職希望登録者支援事業は、95年度にスタートした。妊娠や出産、育児、介護などを理由に退職し、再就職を希望する男女で、退職する前に雇用保険被保険者だった人が対象。原則として、登録からの有効期間は4年で、1回更新できる。

登録横ばい

県内の登録者は数百人程度。同財団の福島事務所は「いったん退職した後、再就職を考えている人が一定数いると考えられることなどから、事業を続けている」としている。ただ、登録者数はほぼ横ばい。市町村役場などにパンフレットを置くなどの広報活動を続けている。

事業の核となるのが再就職準備セミナーだ。福島、いわき、郡山、会津若松、白河など県内各地で、年間11回程度開かれる。法律について学んだり、ワークシートを使って自分の適性を分析したりする。職務履歴書の書き方講座や模擬面接のロールプレーもある。1～3日間に分けて実施され、何度でも受講できる。登録者には情報誌が送られ、個別相談が受けられる。

昨年12月、福島市で開かれたセミナーには、女性約10人が参加した。

この日は、「コーチング的面接対策講座」が中心だった。講師の原田祥子さんが「皆さんは、どんな人と一緒に働きたいですか？」と質問。すると、参加者から「明るい人かな」「人の悪口を言わない、愚痴を言わない人」などと活発に意見が出された。

「初頭効果」

原田さんは第一印象の重要性を指摘、「目から入った情報で55％、耳からは38％、言葉遣いから7％が判断されるというデータがある。『初頭効果』と言い、最初の印象が大切」と話した。

効果的な方法として、相手の話をまず聞く、質問するときには「すみませんが」「恐れ入りますが」という言葉を使う、などとアドバイスした。

その後、面接官、受験者、観察者の3人一組で面接のロールプレーを行った。面接官役の参加者に、名前やセミナーへの参加動機、自分の長所や短所を尋ねられ、のびのびと笑顔で答える参加者が目立った。

託児も完備

参加者たちは「共通点を引き出せると、とてもうれしかった」「相手からどんなことを引き出してあげられるか考えて話した」「言われてみて初めて、自分のことがわかることが多い」などと話していた。

同事務所の鈴木光二課長は「パソコンを学ぶ講座もあり、参加者同士の情報交換や交流にいかすこともできる。無料で託児も完備しているので利用してほしい」と話している。

再就職準備セミナーで参加者は面接のコツを学んでいた＝福島市入江町で